

●受難節第五主日

泉のほとり

今月の詩編「第十五編」

主よ、どのような人が、

あなたの幕屋に宿り、

聖なる山に住むことが

できるのでしょうか。



あなたの父と母を敬え

「はじめに神が天地を創造された。」聖書のはじめは、天地の起源、万物の起源、何より「人」の起源を語り、伝えられています。すべての始まりを知ることが、神のこぼさるに際し非常に重要です。

十戒の第一から第四戒までは、万物と人を造られた神が人の神であられ、神ご自身と人との関係を中心に語られました。そして第五の戒めからは、人と人との関係においての具体的な戒めが語られています。「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができ」と命じられました。

「父母を敬う」とは、全世界のどの国、民にも見られるものですが、単なるこの世の道徳、倫理の徳目としてではなく、神の創造に続く、神のお定めになった「秩序」であることを記憶したいのです。そして、神に対し使われる「恐れる」「敬う」ということばが父母に対しても用いられている事実は、神を恐れ敬うように、父と母を恐れ敬えと伝わるものです。

「敬う」とは具体的な行動指針ではなく、人自身の「心のありよう」に対し命じられています。神が定められたこの秩序に立ち、自分自身の心を問う信仰があるかと、まずこの戒めは問うています。

しかし現実はどうでしょうか。一番身近なところで親の欠点も弱さも知り、敬う心が不満や反抗心、見下す心に変わることも少なくありません。本当に家庭環境が複雑で不幸で、どうしても親を赦せないという苦しい痛みを抱える人もいます。聖書はそのような現実に合わせて、敬わなくともよいとは教えていません。例外的なことを考える前に、この戒めが全能者から命じられた神からのものである事実を恐れなければなりません。

人は自分のよしあしの判断で神を差し置いて生きてきましたが、天の父はご自身の独り子を人の代わりに死に引き

渡されました。人を赦すためです。この天の父を知り、その愛と恵みにとどまる人には、与えられた苦しみよりも、今自分が神のものとされていることに、産んでくれた父母や養ってくれた日々が、大きな恵みに数えられる心になるのではないのでしょうか。実に神は、人への恨みや過去の悲しみを引きずるのではなく、心を癒やされる方です。人を造られるのは神の創造の業です。二人の間に命が宿り、胎内で形づくられたのは神さまの御業であり、父と母は「私」という人があるようにとされた、神の創造の御手として用いられたのでした。また、すべての生き物を日々養うのも神の御業です。私たちが覚えていないすべての時にも、毎日の食事を作り食べさせる労苦と責任を果たす父と母を通して、神は「私」を養われたことを忘れてはなりません。父と母はその神の養い手として立てられたのです。

人は親の弱点や欠けを見下しますが、愚かさや弱さを帯びながらも自分の子を毎日欠かさず養ってくれたことは、平凡と見えたとしても非凡なことです。神はまず、自分を産み養った目に見える父母を敬うことを通して、目に見えない神を敬い恐れることを学ばせているのです。人がこの戒めを心から守るためには、時に自分の正しきや理不尽と思う判断など、自分自身を捨て、へりくだらなければなりません。

主は「そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができ」と言われました。こころは、はじめの時の「祝福」を思い起こすところです。エデンの園だからよいのではなく、「父母を敬う」という神の秩序が守られ生きる「人」ゆえに、その「大地」も祝福の中にあつたことでした。神の国だから神の国ではなく、人が神の戒めを恐れ、神の秩序に生きるゆえに、神の国での永遠の命が示されていることをも記憶したいのです。

すでに父母がこの地上の歩みを終えた方には実践できない戒めです。しかし、私たちには天の父がおられます。一心に神を恐れ敬い、従う信仰に生き、愛する子たちとその信仰を残して生きることで、神の国を受け継ぎ、受け継がせて生きたいと心から願います。

二〇二六年度

役員会組織

新年度役員会は二〇日に行われた組織会にて、二〇二六年度の役員会組織を左記のように定め、承認しました。

●運営委員会

書記 山下純一
副書記 上原利之
財務 山名隆史
副財務 井手英利史

●礼拝伝道委員会

石川一
大友初枝
神山宣紀
佐山貴亮
山名弘史

●教育奉仕委員会

荒美俊三
川越啓子
高知尾有里
平川智恵子

《今日のお知らせ》

○礼拝後、地下ホールで「聖書輪読と祈りの会」を行います。聖書と讃美歌をお持ちになって、お集りください。

○受難節を過ごしています。この一年、受けた恵みを原稿用紙二枚（八〇〇字）以内でお書きいただき、ご提出ください。メールでの提出も受け付けています。アドレスは「tent@gloria-c.hapel.com」です。

《ぶどうの会より》

本日、ぶどうの会はお休みです。

《味噌造りの会より》

自家製お味噌作り
日程は四月二三日木曜一五時半から一七時と二四日金曜九時から一六時頃までです。参加費など詳しくは楠富士子姉・日比野靖子姉にお声掛け下さい。

《交 読 詩 篇》

※会衆は太字の箇所を唱和します。
〔司・会〕の箇所は司式者と会衆が合わせて唱和
します。

【詩篇十五篇】ダビデの詩。賛歌。

主よ、どのような人が、あなたの幕屋に宿り

聖なる山に住むことができるのでしょうか。

それは、完全な道を歩き、

正しいことを行う人。

心には真実の言葉があり

舌には中傷をもたない人。

友に災いをもたらさず、

親しい人を嘲らない人。

主の目になわなないものは退け

主を畏れる人を尊び

悪事をしないとの誓いを守る人。

金を貸しても利息を取らず

賄賂を受けて無実の人を陥れたりしない人。

(司・会)

これらのことを守る人は

とこしえに揺らぐことがないでしょう。

《今日の子ども礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「人の声か、主の御声か」

聖書 ヨハネ18章28〜38節

説教者 宮間彰広兄

《次週の礼拝》

●子ども礼拝(午前9時20分・地下ホール)

説教 「ユダヤ人の王」

聖書 ヨハネ19章17〜29節

説教者 吉村和雄 名譽牧師

●主日礼拝(午前10時30分・礼拝堂)

讚美歌 137番 260番

説教 「人のために流される血」

聖書 マルコ14章12〜26節

説教者 宮間彰広兄





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 134番 346番
説教 「主イエスの愛に应えて」
聖書 マルコ14章1～11節(新約P.90)
司式 石川一兄
聖餐司式 黄允湜 牧師
説教者 吉村和雄 名誉牧師

前奏曲「ああ神よ、誰に嘆いたら良いのでしょうか」

P.ヒンデ・ミート

○讃美歌134番

1. いざいざきたりて みまえにひれ伏し
ともどもかなしめ 十字架の主イエスを
2. ひとびとあざけり ののしるこのとき
なみだを惜しむや 十字架の主イエスに
3. 手足はくぎづけ のんどはかわきて
目は血におおわる 十字架の主イエスは
4. ななたびななつの ことばにすくいと
めぐみをあらわす 十字架の主イエスは
5. 世のひとつみをば おかせど御神の
愛こそ勝ちたれ 十字架の主イエスぞ
アーメン

○讃美歌346番

1. たえにうるわしや ヤコブより出でし
あしたの星よ たえにしたわしや
ダビデのすえなる すくいのみよ
主よ 主よ うえなくとうとき御名をば
なにかはたとえん
2. さかえにかがやく きみのみすがたは
日よりまばゆく めぐみにあふるる
きみのみことばは こよなくあまし
主よ 主よ わすれもえがたきみいつを
いかにほめまつらん
3. きみこそわが知恵 またわがあがない
わがすべてなれ み手にひかれつつ
みくにへゆく身ぞげにもさちなる
主よ、主よ、はかり知られぬめぐみに
たれかよくむくいん アーメン

聖餐曲「おお汚れなき、神の子羊」 J.S.バッハ

後奏曲「そうあの人に願おう」 P.ヒンデ・ミート

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。